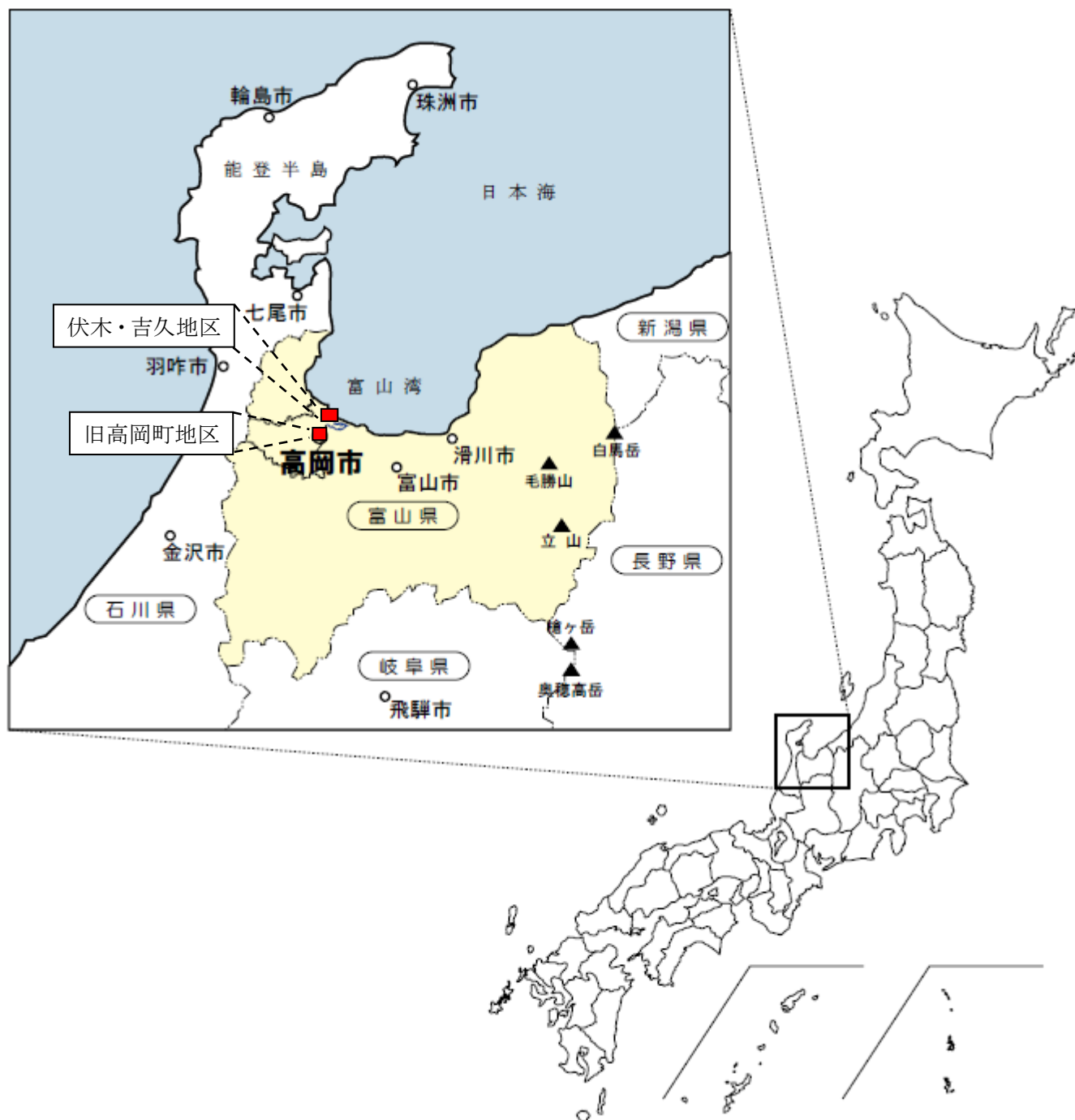


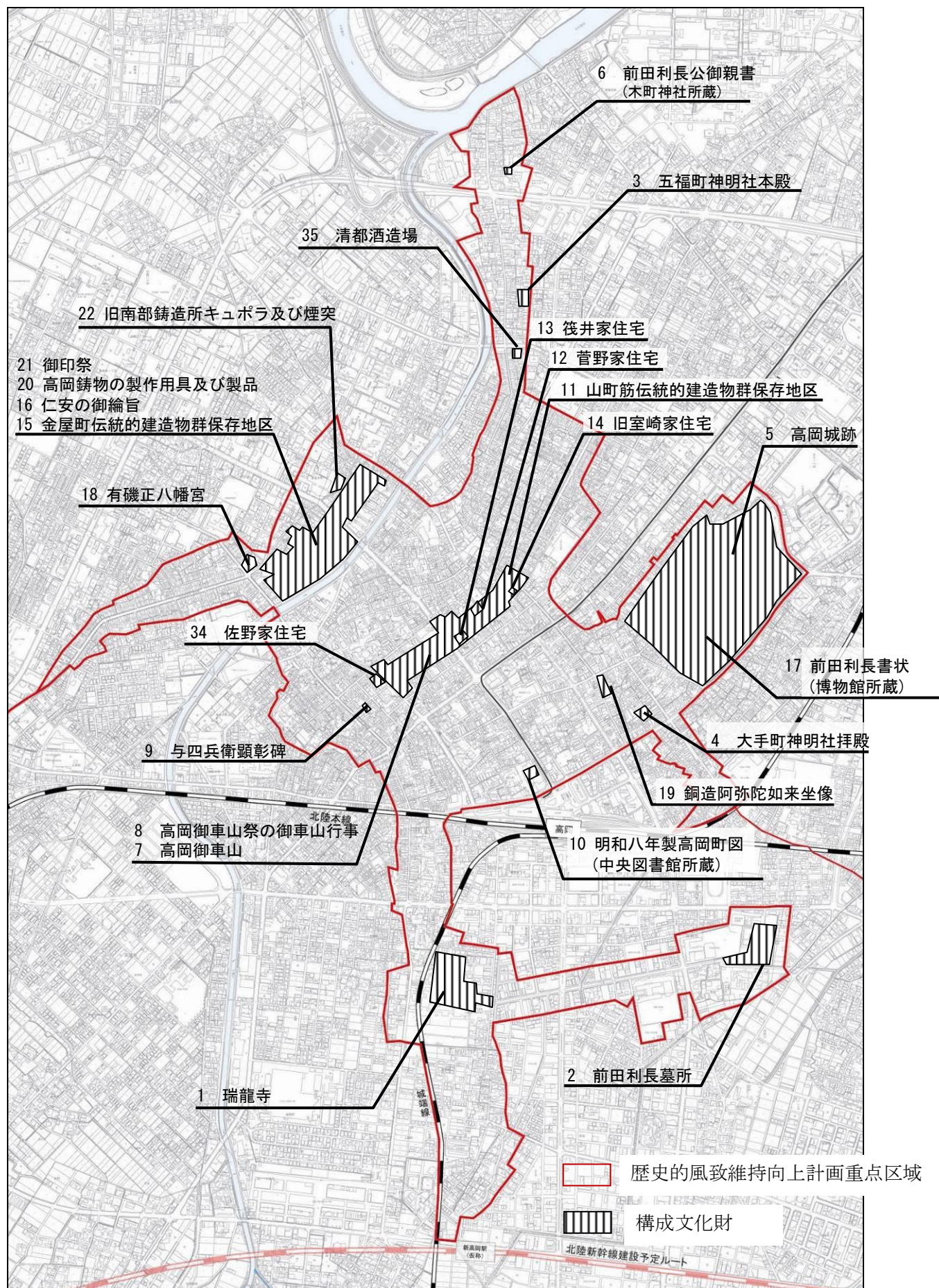
① 申請者	高岡市	② タイプ	<div>地域型 / シリアル型</div> <div> <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E </div>		
③ タイトル					
加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心一					
④ ストーリーの概要（200字程度）					
<p>高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。</p>					
⑤ 担当者連絡先					
担当者氏名	高岡市市長政策部文化創造課 主事 田中 裕香				
電 話	0766-20-1255	FAX	0766-20-1644		
E-mail	bunsou@city.takaoka.lg.jp				
住 所	富山県高岡市広小路 7-50				

市町村の位置図（地図等）



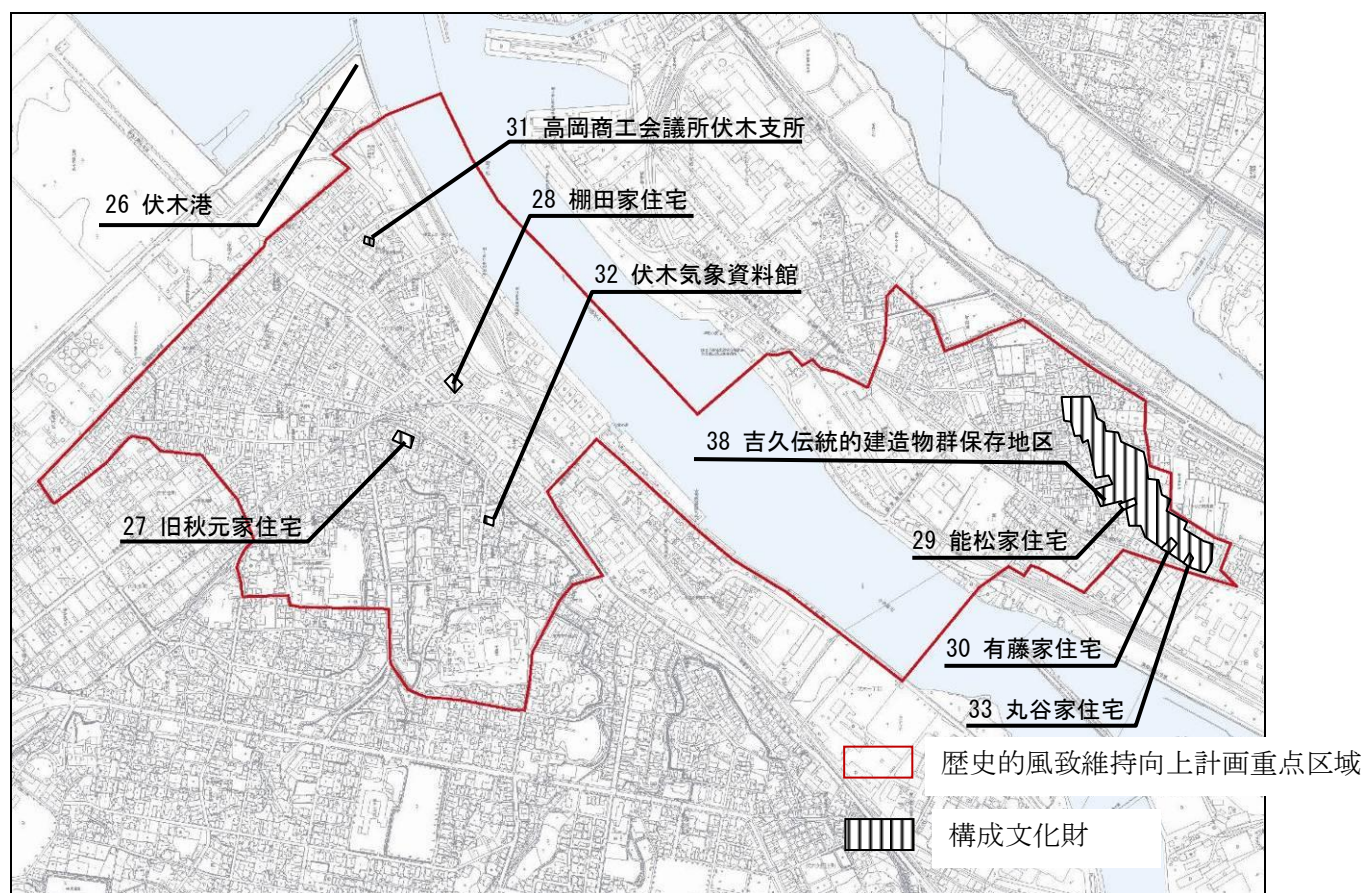


## 構成文化財の位置図（地図等）（旧高岡町地区）

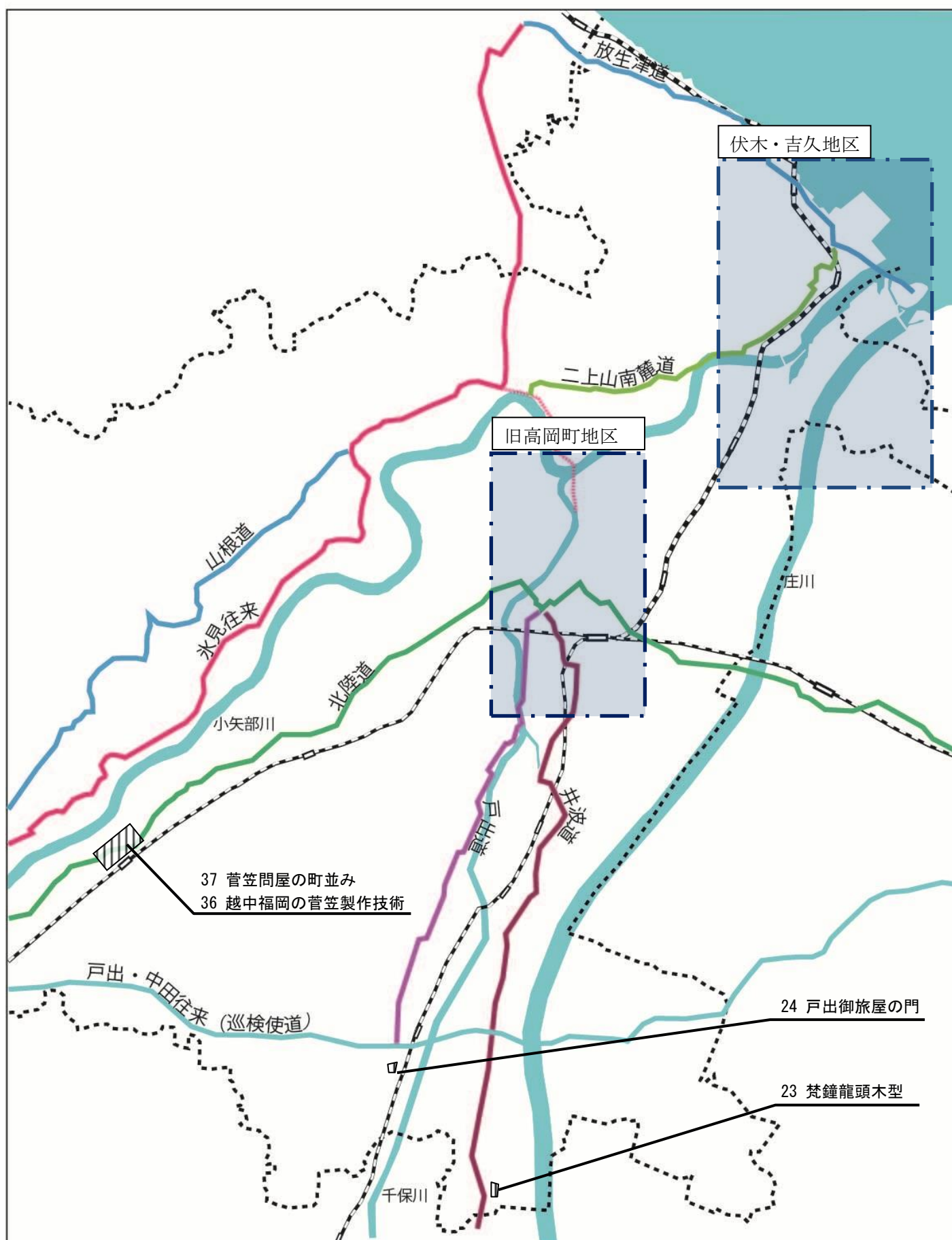




構成文化財の位置図（地図等）（伏木・吉久地区）



構成文化財の位置図（地図等）（高岡市内全域）





## ストーリー

## 高岡城と城下町の形成

高岡は、北陸を代表する穀倉地帯を背後に控え、北は富山湾に面し、雨晴海岸からは海越しに 3,000 m 級の立山連峰の大パノラマを見ることが出来る、美しく豊かな自然に恵まれた環境を有し、古くは旧石器時代まで遡る人々の営みが見られた。

現在の高岡の基盤は、近世初期に形成された。加賀前田家二代当主前田利長は、若き頃に山城（守山城）から俯瞰し、この高岡の地が要害としての軍事的な機能だけでなく、水陸交通の要衝として経済的な機能を合わせ持つ理想的な地であると見抜き、慶長 14 年(1609)、高岡城を築城した。荒れ地であったにもかかわらず、この地で築城できる機会を心待ちにしており、驚異的な早さで建設工事を進め、築城開始からわずか半年で入城するに至った。城下町の一面に、資材の集積と調達を行うための拠点(木町)を設けたことや、砺波郡の西部金屋から 7 人の鋳物師を招き、無租地とするなどの厚い保護や特権を与え、鋳物づくりを行う鋳物師町(金屋町)を設けたことで、城下町としての繁栄を図った。

しかし、高岡城を創建し 400 余年に渡る高岡市の発展の土台を築き上げた人物である利長は、在城わずか 5 年で他界してしまう。家臣団はことごとく金沢に引き揚げ、次いで一国一城の令により、高岡城は廃城となったので、城下町の歩みを始めていた高岡は、たちまち絶望の淵に突き落とされたのであった。



## 城下町から商工業都市への転換

城がなくなれば、城下町は存在の意義を失ってしまう。高岡は、新設の政治都市として日が浅く、町を存続するにはそれ相応の対策がなくてはならない。三代当主前田利常は、一朝の夢に終わるか危ぶまれた高岡の繁栄を、活を入れて立て直したのである。高岡町民の他所転出を禁じ、その上で、布御印押人を置くことで高岡を麻布の集散地とした。さらに、御荷物宿、魚問屋や塩問屋の創設を認め、城跡内には米蔵と塩蔵を設置するなど、商業都市への転換策を積極的に講じていった。

利常は、利長が高岡に相当の希望をかけていたことを知っていた。だからこそ、商業都市への政策転換を進める上でも、利長が築き上げた町割りなどを活かした形で行われた。異母弟である自分に家督を譲ってくれた利長への恩義も深く、菩提のために造営した壮大な伽藍建築を持つ瑞龍寺や異例の規模を誇る墓所は、利常自身のみならず、町民に永く利長の遺徳をしのばせ、併せて町の繁栄を願う気持ちも込めて建立された。また、利常は高岡が軍事拠点としての機能を失うことに対する危惧を持っていた。高岡城にあっては、平和的利用として米塩の藩蔵を建てることによって幕府に干渉の口実を与えず、城の郭や堀は完全な形で残すことができたのである。その姿は今日でも変わらない。利常の優れた経営手腕は、現在も数多く残る関連文化財群に垣間見ることができる。

## 高岡の近代化

利常の没後も加賀藩ではその意思を継ぎ、高岡の商工業発展のための方策を打ち出していった。利常によって再建された高岡は、商人の町であると同時に職人の町でもあり、藩政時代を通じて領内の鋳物業界を支配し、町としての特色が根付いていくとともに町民自身も自ら競い合いながら発展していった。最初は、鍋・釜などの生活用具、農具等の鉄器具類が作られていたが、次第に銅器の鋳造が始まり、18 世紀後半になると香炉・花瓶・火鉢・仏具等の文化的な品物の需要が高まり、装飾性の高い製品が製造されていった。銅器製造が盛んになるにつれて、これらの製品を売りさばく商人や問屋も次第に力

をつけ、北前船（バイ船）交易などによる国内流通の発展も伴い、江戸時代後期には全国各地に広い販路を確保し、海外貿易にも乗り出していくのである。

一方、伏木港の重要性は、砺波・射水両郡の穀倉地帯で収穫された米を各地の御蔵等から集めて伏木・吉久へ川下げし、伏木港から大坂・江戸へ廻米として積み出すという流通ルートが確立され、18世紀以降は、加賀藩全体の物資の集散地として、また、北前船(バイ船)の寄港地としてさらに強まることとなった。港町には何軒もの廻船問屋が軒を連ね、藩の経済の一翼を担う富をもたらすまでに成長した。流通の拠点として水陸の両路の基盤整備が進み、高岡が米や綿、肥料など生活に必要な不可欠な物資の取引拠点として隆盛を極めた様子は、「加賀藩の台所」として後世に語り継がれている。

物資の取引拠点として富を得る一方、藩は町民が華美に流れるのを憂えていた。町民が贅沢を見倣うと勤労を厭うようになり、経済の基本を脅かすと考え、平生の儉約令を発していた。しかしながら、お祭りを盛大に行うことは奨励していたため、町民にとってはお祭りの日を待ちわび、日々の抑圧された不満を緩和するものとして盛大に行ってきた。

御車山祭はその代表的なもので、七基の御車山には彫金・漆工・染織など高岡の伝統工芸の粋を集めた豪華な装飾が施されている。山車は利長が町民に分け与えたことに起源を持ち、当初は素朴なものであったが、各部材の製作・購入・修理等は、開町以来培われてきた町民の経済力・工芸技術によるものである。山車を持つ各町が競うように絢爛豪華な装飾を施しながら現代まで伝承されている姿は、自ら主体となって地域に貢献してきた町民の心意気を象徴するものである。



### 町民の心意気とものづくりの職人魂

町民自身が担い手となり、地域に富を還元し町の発展に貢献してきたことは、近代以降にあっても継承されていった。明治の文明開化といった全国的な時代の変遷を経ても、町民にとっては商売継続の望みを失うことなく、むしろ実力を存分に発揮する長年待ち望んでいた好機としてすら捉えられるものであった。事実、維新後は県庁の所在地ではないためのハンディキャップを負いながらも、常に県都に比



肩し日本海側屈指の商工都市として気を吐いている。とりわけ、鋳物業をはじめとする伝統産業は、繊細な技術やデザインを誇り、全国有数のものといっても過言ではない。

現在でも、町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに町民の歩みが独特の気風として色濃く残されている。競い合いながら発展を続けてきた町民の気質は、DNA としてこの町に住む人々に受け継がれており、高岡はまだ発展の最中にある。歴史と文化の保存・継承のみならず、歴史資産を活かした取組みを進めながら、新たなまちの文化や魅力の創造に繋げていく。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	瑞龍寺	国宝・重要文化財 (建造物)	高岡開町の祖前田利長の菩提を弔うために建てられた曹洞宗寺院。外様大名の菩提寺としては壮大過ぎるとされるその理由には、前田利常にとっては、自身を次期藩主へ抜擢してくれたことに対する並々ならぬ恩義があったことや、高岡の町民に長く利長の遺徳をしのばせ、併せて町の繁栄を受ける意図を託したものと考えられる。	
2	前田利長墓所	国指定史跡	近世大名の個人墓所としては総面積約1万坪と、破格の規模を誇るものである。前田利常により造営され、瑞龍寺と墓所をつなぐ道路である八丁道と併せて整備された。ともに前田利長を偲ぶ意図が込められている。	
3	五福町神明社本殿	市指定文化財 (建造物)	慶安5年(1652)前田利常によって前田利長墓所に建てられた鎮守堂の遺構で、瑞龍寺の造営と並行するものであったことが明らかとなっている。この場所へは明治初年に移築された。	
4	大手町神明社拝殿	市指定文化財 (建造物)	五福町神明社本殿と同じく前田利長墓所に建てられた拝殿であり、明治維新による廃仏毀釈と神仏分離の動きを受けて分割して移築されたものである。	
5	高岡城跡	国指定史跡	築城技術が高度に発達した近世初頭の縄張りをほぼ完全な姿で留めている城跡である。廃城となった後も、高岡城本丸の殿閣撤去跡に新しく米塩の倉庫が建てられたことで城跡の荒廃を防ぐとともに、城下町から商工の町に転向する第一歩を歩んだ。	
6	前田利長公御親書	市指定文化財 (古文書)	高岡城の築城と城下町の建設に先立ち、その資材となる木材集散地として町立てした木町の成立に際し利長の厚い保護のあったことを示す史料であり、木町は、高岡の玄関口として重要な役割を果たしてきた。	
7	高岡御車山	重要有形民俗 文化財	高岡御車山は7基の山車で構成され、形式は二番町の車輪が2輪であることを除き、ほぼ酷似している。増減を許すことなく現代まで7基であり、高岡金工漆工の粋を集めた総作品として高い美術工芸的価値を有するものである。	



8	高岡御車山祭の御車山行事	重要無形民俗 文化財	お祭りを盛大に行うのは加賀藩の政策であり、百姓町民にとっては神様に感謝祈念を込める行事であるとともに普段の俟約から解放される不満緩和の安全弁として機能した。町民自身が楽しむために自らの富を投資し、地域経済を動かしていたことが分かる代表的な行事である。	
9	与四兵衛顕彰碑 (弥真進大人命旧跡)	—	津幡屋与四兵衛は、御車山と類似の山を作った近郊の町との騒動の際に、御車山の由緒を死守しようとした義人として山町の人々から崇められている。毎年 4 月 3 日に祭祀が行われている。	
10	明和八年製高岡町図	市指定文化財 (古文書)	高岡の町図としては、現存する最古の部類の町図であり、明和年間の高岡町の街区、用水の状況、高岡城跡などが明記されている。所在地を明確にするとともに、米納地子地も記載されていることから、当時の農業生産力を知ることにも出来る重要な史料である。	
11	山町筋重要伝統的建造物 群保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	重厚かつ繊細な意匠を持つ土蔵造りの伝統的建造物が立ち並ぶ地区であり、近世初頭には米商会所が置かれ、綿市場の拠点として高岡の経済的な発展に大きく貢献した。高岡御車山を所有・継承していることから「山町」と呼ばれている。	
12	菅野家住宅	重要文化財 (建造物)	菅野家住宅は、質の高い伝統的な町家が多く残る山町筋の建物の中でも、大規模で質の高いものとして評価を受けている。高岡政財界の中心的存在として財を築き、明治 33 年の大火にあっても直後に再建されるなど、高岡の隆盛を物語る土蔵造り建物の代表格である。	
13	筏井家住宅	県指定文化財 (建造物)	筏井家住宅は、在来の町家にみられる伝統的技法を踏襲しながらも、塗壁による防火構造、洋風の構造・意匠を導入した質の高い建造物として貴重なものである。代々、綿糸などの卸商を営んでいた商家であり、山町の発展に寄与してきた。	
14	土蔵造りのまち資料館 (旧室崎家住宅)	市指定文化財 (建造物)	旧室崎家住宅は、土蔵造りの大規模な町家の例であり、質が高く、背後の土蔵や庭など、屋敷の様子も旧状をよく留めている。もとは綿糸や綿布の卸商を営んでおり、今では資料館として公開されている。	
15	金屋町重要伝統的建造物 群保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	金屋町は、高岡開町に際し前田利長が鋳物師を招き、鋳物づくりを行わせたことに始まる鋳物師町である。装飾品や美術工芸品として銅鋳物が作られ、人々の多様なニーズを研究し、その需要に基づき努力を続けたことで、一大生産地としての発展を遂げた。	

16	仁安の御綸旨	市指定文化財 (古文書)	鋳物師に対して全国に鍋・釜・鍬・鋤を販売することを命じ、そのため諸役を免除し全国通行の自由を保証した御綸旨であり、この御綸旨を活かして鋳物業に従事してきたことが窺える。	
17	前田利長書状	市指定文化財 (古文書)	前田利長が高岡へ居城を移す際に、側近に命じた事項が記された史料であり、金屋町の発祥を示すだけでなく、町割りが武家地の屋敷割と同じ頃に行われていることを示しており、城下における金屋町の高い位置付けを指摘できる重要なものである。	
18	有磯正八幡宮 (本殿・釣殿・拝殿及び幣殿)	登録文化財 (建造物)	金屋の氏神として、石凝姥命を祀っている。今も鋳物師たちの信仰を集めるものとして、「鍋宮様」とも呼ばれ、年に一度「御印祭」を行っている。祭には、前田利長の遺徳を偲ぶとともに、長く続いてきた鋳物業への感謝の意も含まれる。	
19	銅造阿弥陀如来坐像	市指定文化財 (彫刻)	高岡大仏として市民に親しまれている銅製大仏であるが、元は木造であった。途中、資金難により銅製大仏での建立が中断するも、高岡銅器職人の献身的な動きと、市民の浄財により開眼供養に至った姿には、町民の町として発展した誇りが垣間見える。	
20	高岡鋳物の製作用具及び製品	登録有形民俗文化財	金屋町を中心に、江戸時代以来行われてきた鋳物製作に用いられた用具類とその製品を収集したものであり、高岡鋳物の製作技法の変遷を良く示す多様な用具が収集されており、鋳物生産の実態を示す貴重な史料である。	
21	御印祭	—	有磯正八幡宮の神事であり、前田利長の遺徳を偲ぶための祭である。前夜祭には「弥栄節」と呼ばれる作業歌に合わせて町流しを行うなど、今でも引き継がれて行われている。	
22	旧南部鋳造所キュポラ及び煙突	登録文化財 (建造物)	高岡の鋳物技術は、木製のふいご「たたら」を踏んで溶鉄や溶銅を得ていた手法から、新式溶鋳炉で鋳造する手法へ変遷していった。この建造物は、金屋町の近代化の歴史を示す遺構として貴重である。	
23	梵鐘龍頭木型	市指定有形民俗文化財	梵鐘を鐘楼の梁に吊るすために上蓋にしつらえた龍の形状の環状部を指し、戸出西部金屋に代々伝わっている。これは、戸出西部金屋に鋳物業が盛行したことを証明する資料ともなるものである。	
24	戸出御旅屋の門	市指定文化財 (建造物)	前田利常により建てられ、御旅屋として主屋と3棟の土蔵棟で構成されていたと伝えられている。建物は明治に一部倒壊され、門だけが残されているが、江戸時代初期の御旅屋の面影を残すものとして貴重である。	



25	勝興寺	重要文化財 (建造物)	勝興寺は、戦国期には越中における一向一揆の拠点寺として機能してきた。近世には本願寺や加賀前田家とも関係を強め、藩政期を通して門前地を寺内町として支配下に置いていた。寺内町が舟運業で賑わいを見せる中でも核としてその存在を示し、現在でも寺内町・港と一体となった景観的・経済社会的なつながりを伝えるものとして貴重である。	
26	伏木港（伏木浦）	—	北前船（バイ船）の中継地で、近世・近代にいたるまで盛んに交易が行われ、日本海沿岸の重要な港湾施設として機能してきた。	
27	伏木北前船資料館 (旧秋元家住宅)	市指定文化財 (建造物)	秋元家は、北前船の交易により繁栄した伏木地区にあり、当初は小宿（船主や水夫等の宿泊施設）として、時代が下るにつれて廻船問屋として繁盛した。明治期の廻船問屋の屋敷や建物の様子をよく留める貴重な歴史建造物として一般公開されている。	
28	棚田家住宅	登録文化財 (建造物)	棚田家住宅は、主屋、寄付待合、水屋、茶室及び三棟の土蔵で構成される建物群で伏木が北前船交易によって繁栄していたことを物語る廻船問屋の建造物である。	
29	能松家住宅	登録文化財 (建造物)	吉久は、承応 4 年（1655）に「吉久御収納蔵」と呼ばれる米蔵が建てられ発展を遂げた村であり、能松家住宅はその吉久地区のほぼ中央にある旧家である。江戸時代以来、米商を営み、財を成した。	
30	有藤家住宅	登録文化財 (建造物)	有藤家住宅は吉久の西側に位置しており、建設当初の形式をよく保持している町家として貴重である。明治期には石灰俵編みと農業を生業としていた旧家である。	
31	高岡商工会議所伏木支所	登録文化財 (建造物)	高岡商工会議所伏木支所は、明治 43 年（1910）に伏木銀行として建てられた土蔵造りの建造物である。土蔵造りに洋風の意匠をふんだんに採り入れた銀行建築となっており、伏木みなど町の繁栄と近代化を象徴する代表的な建造物である。	
32	伏木気象資料館 (旧伏木側候所庁舎・測風塔)	登録文化財 (建造物)	伏木の廻船問屋に生まれた大商人「藤井能三」によって、伏木港を航行する船舶の安全のための天候観測施設として建てられた。藤井能三は伏木地区、ひいては高岡の経済発展に尽力した者であり、当施設は全国初の私立測候所であるとともに、伏木港の近代化を物語るものとして貴重である。	

33	丸谷家住宅	登録文化財 (建造物)	吉久地区は「御蔵」を中心にして町並みが築かれた地区である。丸谷家住宅は「米商」「蔵仲間」として有力な家の一つであった旧津和野家住宅を買い取ったもので、現在でも明治期の古い形態を良く残し、表構えも良好に保たれている貴重な建物である。	
34	佐野家住宅	登録文化財 (建造物)	佐野家住宅はかつて高岡米穀取引所の仲買人組合長として活躍した「菅池貞次郎」が建設したものである。重厚な土蔵造りでありながら洋間や上げ下げ窓などに洋風要素を採り入れた姿には、町の発展に貢献してきた歴史を感じさせる。	
35	清都酒造場	登録文化財 (建造物)	清都酒造場は、製造商品名「勝駒」の木製看板を主屋板底に寄せ、現在も造り酒屋を営み続けている老舗である。明治 33 年 (1900) の高岡大火以前の貴重な町家建築として酒屋らしい店構えを見せており、高岡の歴史を味わうことが出来る。	
36	越中福岡の菅笠製作技術	重要無形民俗 文化財	加賀前田家 5 代当主前田綱紀が奨励したことから発展し、今に伝える越中福岡の菅笠製作技術。菅草の栽培から出荷までの全工程が一貫した生産体系で維持されている例は国内で唯一とも言え、当初の生産・製作形態を保ちながら継承する姿はまさに、『一人、技、心一』を伝えている。	
37	菅笠問屋の町並み	— (景観形成重点 区域)	福岡の菅笠は江戸時代から加賀笠として広く知られるようになり、一大生産地として全国シェアの 9 割以上を占めるほどとなった。旧北陸街道沿いに伝統的な町並みが良く残っており、菅笠生産による賑わいを物語っている。	
38	吉久重要伝統的建造物群 保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	加賀藩直営の「御蔵」が設置された吉久は、北前船寄港地である伏木港から大坂・江戸へ積み出す廻米の集散地として、また、高岡の生活に必要な物資の取引拠点として、水陸の両路の基盤整備が進み、在郷町として発展した。	



## 構成文化財の写真一覧

### 1 瑞龍寺



### 2 前田利長墓所



### 3 五福町神明社本殿



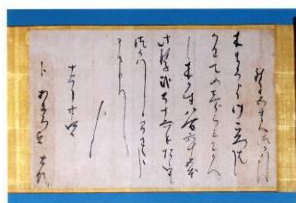
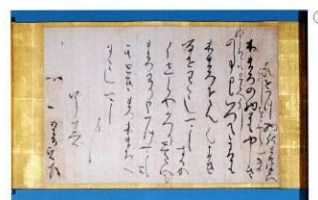
### 4 大手町神明社拝殿



### 5 高岡城跡



### 6 前田利長公御親書





7 高岡御車山



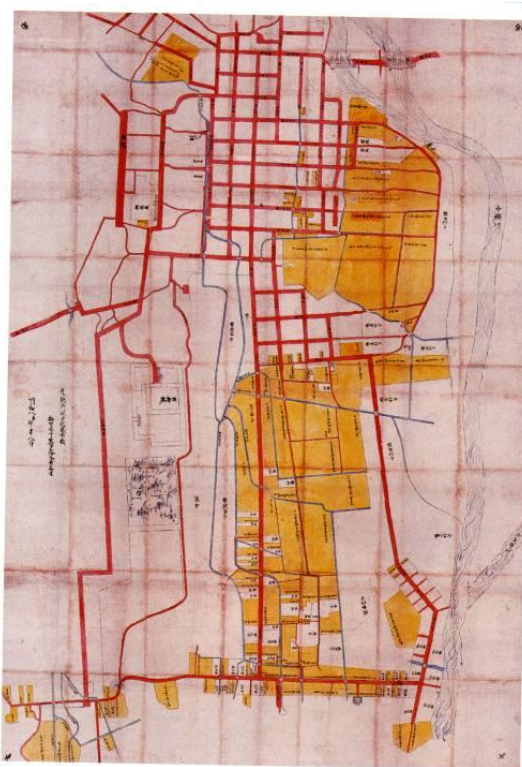
8 高岡御車山の御車山行事



9 与四兵衛頭彰碑



10 明和八年製高岡町図



11 山町筋重要伝統的建造物群保存地区





12 菅野家住宅



15 金屋町重要伝統的建造物群保存地区



13 筏井家住宅



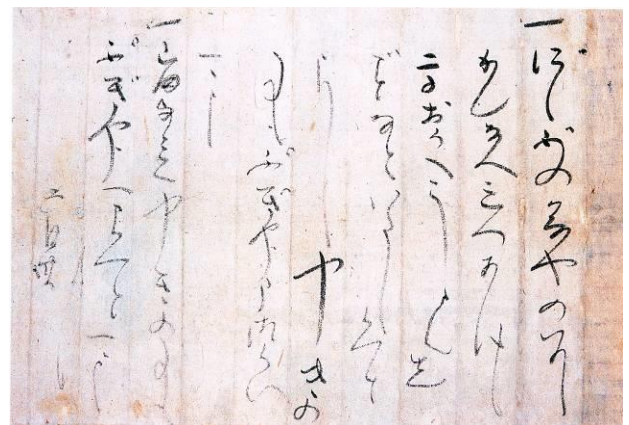
16 仁安の御綸旨



14 土蔵造りのまち資料館（旧室崎家住宅）



17 前田利長書状





18 有儀正八幡宮



19 銅造阿弥陀如来坐像



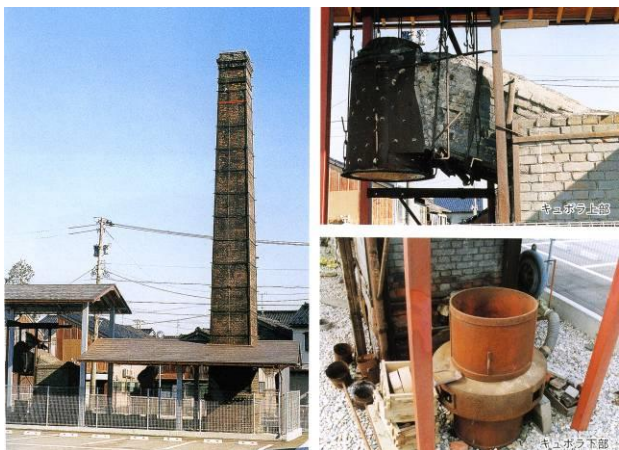
20 高岡鑄物の製作用具及び製品



21 御印祭



22 旧南部鑄造所キュポラ及び煙突



25 勝興寺



23 梵鐘龍頭木型



26 伏木港



24 戸出御旅屋の門



27 北前船資料館（旧秋元家住宅）





28 棚田家住宅



29 能松家住宅



30 有藤家住宅



31 高岡商工会議所伏木支所



32 伏木気象資料館（旧伏木側候所庁舎・測風塔）



33 丸谷家住宅





34 佐野家住宅



35 清都酒造場



36 越中福岡の菅笠製作技術



37 菅笠問屋の町並み



38 吉久重要伝統的建造物群保存地区



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
3	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡-人、技、心-

## (1) 将来像 (ビジョン)

本市は、平成 29 年度から令和 8 年度を対象とした総合計画基本構想のなかで、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる市民創造都市高岡」を将来像に掲げ、市民一人ひとりが高岡の強みを活かし、その力を最大限発揮し、観光・産業振興や地域の活性化を実現する都市となることを目指している。

高岡市の強みとは、「町民文化」＝文化力、「ものづくり産業」＝創造力、「高い地域力」＝市民力であり、日本遺産に認定された 2 つの物語「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心」及び「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」においても、400 年前の開町から現代まで引き継がれている市民の力、心意気を高岡市の強みとしている。

本市の核となる総合計画基本構想に掲げる将来像を踏まえ、日本遺産を活用した以下のような取り組みを実施している。

- ・市民に対して本市の歴史・文化を学ぶ機会を提供することで、ほかの地域にない個性的な物語や、歴史的建造物・町並み・祭礼行事などの文化資源の価値を知り、誇りと愛着を持っている。地域外の知人や観光客に、その魅力を自ら語り、発信できるようになっている。

- ・歴史的な町並みや建造物を活用した飲食店、宿泊施設、土産物店などが増え、地域の複数の構成文化財をつなぐ公共交通案内や標識、モデルコースが整備され、観光客の滞在時間が長くなり、観光関係産業が賑わっている。

また、産業観光にも注力し、伝統的工芸品である高岡銅器、高岡漆器や越中福岡の菅笠の製作体験や見学ができる工場・工房や店舗、イベントブースが増え、職人との交流を通じて、その魅力を買手手に伝えられるようになっている。つながる仕組みや場が増え、地場産品の販売額が増加したり、外部の人材と職人とがコラボレーションして新商品が開発されたりといった地域産業の活性化をもたらしている。

人と人とのつながりが増えることが、高岡ファンを増やし、ふるさと納税の増加、繰り返し高岡を訪れる関係人口の増加、そして移住者の増加につながっている。

- ・歴史・文化という地域資源が高岡の強みであると認識し、活用していくことで地域が活性化することが、多くの市民に理解されており、さらなる保存・継承の機運醸成につながるという好循環が生まれている。

以上のような取り組みを実施してきたが、令和 6 年能登半島地震が発生。本市も被害を受け多くの構成文化財が損傷する事態となった。

観光面については、本市の中でも特に被害が大きかった北部エリアについては、認定されている日本遺産ストーリーの魅力を高める構成文化財が数多く所在するが、それらは隣県の「能登のキリコ祭り」を始め、「和倉温泉」、「輪島朝市」等の能登地域の観光資源と併せて周遊する旅程の需要も大きいため、本市の復興が進捗しても能登地域の復興による影響が継続することが想定される。このため、本市の構成文化財を始めとする文化財・観光施設の修復を進めるとともに能登地域の復興も国一丸となって進める必要がある。

また、液状化現象による被害が著しい伏木・吉久地区は、かつて北前船交易によって繁栄を享受した地域であり、本ストーリー及び北前船のストーリーと密接な関わりがあることから一日も早い復旧に努めてまいりたい。

このような、震災復興も含めて日本遺産を活用した様々な取り組みを継続・発展させることにより、本市の総合計画基本構想に掲げる将来像の実現を目指していく。

## （２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：日本遺産コンテンツ体験施設入込数（人）（瑞龍寺、勝興寺、武田家住宅、伏木北前船資料館、土蔵造りのまち資料館、伏木気象資料館、鋳物資料館、高岡御車山会館）※暦年

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	115,220	182,458	237,001			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	279,600	285,800	292,000	298,200	304,400	310,600
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	高岡市総合計画第４次基本計画に基づき基準年（2019 年度：260,793 人）から R8 までに 31,200 人増加。その後も漸増を目指す。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：協力団体が行う日本遺産に関する取組み数（件）

年度	実績
----	----

	2021	2022	2023			
数値	11	12	14			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	16	18	20	22	24	26
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協力団体が日本遺産に関する取組を実施することで地域住民や観光客がストーリーを体験する機会を増やすため漸増を目指す。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：「ものづくり・デザイン科」や「高岡の歴史文化に親しむ日」の事業を通じ、郷土に誇りを持ったり、高岡の良さを再発見したりすることができたと思う児童・生徒の割合（％）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	92	92	93			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	90	90	90	90	90	90
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	すでに高い水準を維持しており、継続して 90%以上を保つことを目標として設定する。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：高岡クラフト体験者数（人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	9,623	18,422	22,530			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	23,000	23,500	24,000	24,300	24,600	25,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	指標：市場街の現地イベント来場者数 基準年（2023 年度：22,530 人）から 2029 年度までに 1 割増の 25,000 人を目指す。					



目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない（活用可能な状態にある）割合（％）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100	100	95			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	95	95	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		全構成文化財（38 件）の活用可能な状態の維持を図る。 令和 6 年能登半島地震の被害を受けて前田利長墓所は安全確保のための立入禁止処置が継続し、高岡商工会議所伏木支所は液状化現象に伴う損壊が著しいため 38 のうち 2 つの活用状況が万全でないとして 2023 年度は 95%とした。今後は修復方法を協議の上、修復を目指す。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：具体的な指標：地域の観光客の入込数（千人）※暦年						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	1, 827	2, 762	3, 507			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	3, 940	3, 960	3, 970	3, 980	3, 990	4, 000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		高岡市総合計画第 4 次基本計画に基づき基準年(2019 年度:3, 850 千人) から R8 までに 3%増加。その後も漸増を目指す。				

### (3) 地域活性化のための取組の概要

#### ●組織整備

日本遺産連盟の中で積極的に役割を果たし、日本遺産フェスティバルなど、全国の協議会と協力した取組みに参画し、日本遺産そのものの知名度向上に寄与するとともに、地域間連携の仕組みづくりに貢献する。

#### 【これまでの成果】

平成 30 年度は本市において日本遺産サミットを開催するなど日本遺産連盟や全国の協議会と連携した普及活動に対して積極的な役割を果たしてきた。

#### 【課題】

日本遺産フェスティバルでは人員・予算の制約によって他のブースと比較して少人数での出展となっているため、少人数でも効果的な活動を行えるよう、より一層の工夫が必要となる。

#### ●戦略立案

本計画期間（令和 6～11 年度）においては、令和 4 年 12 月に勝興寺が国宝に指定されたことにより、瑞龍寺と併せて 2 つの国宝を持つまちとしての本市の強みを活かした戦略立案が必要となる。

具体的には、新高岡駅・瑞龍寺を核とした南部エリア、高岡駅・高岡城跡・山町筋、金屋町の 2 つの重要伝統的建造物群保存地区を核とした中心市街地エリア、勝興寺・吉久重要伝統的建造物群保存地区・雨晴海岸を核とした北部エリアの 3 つのエリアを観光客が周遊することで、市内での滞在時間を延ばし、地域への経済効果を高めるとともに、訪れた観光客の満足度を高めることを目指す。

さらに、ものづくりのまち、工芸都市という本市の特徴を存分に活かし、伝統産業等の工場見学や伝統工芸品の製作体験、職人との交流等の本市でしかできない体験の機会を提供する産業観光を充実させることで、観光客の「モノ消費」から「コト消費」へのニーズの変化に対応していく。

また、日本遺産等の文化財やものづくりのまちとしてのテーマを共有する近隣の都市と連携した商品開発や PR 事業に取り組んでいく。

これらの戦略を、地域の交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドや、地域連携 DMO と共有するとともに、有識者からの評価を受け、各施策の進捗管理を行っていく。

#### 【これまでの成果】

高岡市総合戦略、高岡市総合計画、高岡市歴史的風致維持向上計画、高岡市観光振興ビジョン等他の行政計画の中に日本遺産の位置づけを行い、日本遺産の取組目的を明確にして全市一丸で取組む体制を構築したほか、地域連携 DMO「富山県西部観光社 水と匠」といった地域プロデューサー（コーディネーター）の存在が大きく、連携して事業に取り組んだ。

#### 【課題】

能登半島地震による影響、勝興寺の国宝化、観光客のニーズの変化等、社会情勢の変

化によって戦略も地域プロデューサーと連携しながら変化させて対応する必要がある。

## ●人材育成

日本遺産認定を受けた平成 27 年度以降、コロナ禍の影響を受けた時期もあるが、総合的に有償ガイド数は増え、活動実績も増加しているが、高齢化が進んでいることから、継続して新規ガイドの育成に取り組む。また、インバウンド対応のため、外国語によるガイド講習や DX ツールを活用したガイド講習を実施するなど、ガイドのスキルアップと持続的な体制づくりを図る。あわせて観光客がガイドを安心して利用してもらえるような仕組みづくりの構築に取り組む。

大学との連携によりまちづくりに関わる学生を増やし、将来の担い手を育成する（詳細は後述）。

## 【これまでの成果】

有償ガイドは主に定年退職後に高岡に貢献できる活動をしたいと考える者を新規に取り込むことによって、高齢等で引退されるガイドを上回り、必要な人数のガイドを確保することに繋がった。学生についても「市場街」「ミラレ金屋町」などのイベントの実行委員会に学生が参画し、住民、職人、作家らと交流しながら、主体的に地域の活性化に関わっている。

## 【課題】

一般ガイドでは対応が難しい高付加価値ツアーは地域連携 DMO と関連会社が対応しているが、今後件数が増加した場合の対応を検討していく必要がある。

## ●整備

### ①北部エリアの回遊整備

市北部エリアにおいて、勝興寺を目的に訪れた観光客を周辺施設に呼び込み市内での滞在時間を延ばすために、北部エリアに多くの構成文化財がある日本遺産ストーリー「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」を活用したまち歩きマップの整備や本市の北前船に関する拠点施設である北前船資料館の磨き上げを図る取り組みとして展示を充実させるため文献調査などを実施し、市民や観光客が地域の歴史・文化をより深く理解できる環境を整備する。また、北前船に係る山町筋（重伝建）に所在する菅野家住宅とも連携することで、中心市街地エリアとの周遊ルートを構築する。

### ②中心市街地エリアの整備

中心市街地エリアにおいては、これまでの取組みにより、山町筋（重伝建）、金屋町（重伝建）においては、歴史的建造物を活用した観光客向けの飲食店や店舗、宿泊施設が増加してきた。構成文化財である土蔵造りのまち資料館（山町筋）においては、インバウンド受入れ拠点としての機能整備を目指しており、旧高岡共立銀行（山町筋）においては、令和 4 年 3 月に保存活用計画を策定、令和 4 年度にサウンディング調査を実施した。計画期間中に耐震改修・保存修理工事を完了し、新たな利活用事業開始を目指す。

### ③南部エリアの整備

令和6年秋に実施予定の北陸デスティネーションキャンペーンに向けて新高岡駅の観光交流センターのリニューアルを実施して観光客の利便性向上やタブレット端末導入等の新しい手法の観光案内により市内観光地への入込数増加を図る。このほか、南部エリアの主要観光地である国宝瑞龍寺の耐震診断・耐震改修、保存修理工事、前田利長墓所の保存修理事業を実施することで後世に保存・継承をはかるとともに来訪者の安全確保を図る。

#### 【これまでの成果】

高岡御車山の修理、重伝建地区の修理・修景工事、高岡城跡、前田利長墓所の保全事業など構成文化財を後世に継承していく事業を継続実施してきた。

#### 【課題】

能登半島地震によって多数の構成文化財が損傷を受けているため、新たに災害復旧事業を立ち上げるとともに既存の保存・活用事業計画についても地震の被害を考慮したものに変更する必要がある。

### ●観光事業化

- ①国内外からの観光客の増加と、周辺地域相互の交流人口・マイクロツーリズムの増加
  - ・加賀前田家ゆかりの歴史・文化を共有する地域（金沢市・富山県西部6市）との連携による観光PR
  - ・文化遺産や歴史的建造物・祭礼でつながる七尾市（キリコ）、白川郷、高山市、五箇山への高速バス運行（わくライナー及び世界遺産バスの運行維持・PR）、飛越能経済観光都市懇談会との連携
- ②高岡における多様な楽しみ方の充実による滞在時間の増加
  - ・ものづくり体験をはじめとする高岡ならではの着地型旅行商品の造成の支援
  - ・高岡に関心のある方をターゲットとした宿泊キャンペーン
- ③富裕層インバウンド向け高付加価値コンテンツの展開

本市が有する価値の高い文化財や伝統工芸品は、知的探究心があり、モノの価値についての造詣が深い欧州富裕層と親和性があるため、瑞龍寺、勝興寺、国泰寺の三寺における特別参拝プログラムや伝統工芸品の工房見学・製作体験等の高付加価値コンテンツを富裕層客の希望に応じて組み合わせたツアー商品を販売する地域連携DMOと相互協力を継続していく。

#### 【これまでの成果】

市内観光地の周遊促進事業や近隣市町村と連携した観光客誘致事業を展開したほか、新幹線まちづくり推進高岡市民会議などにおいては官民が一丸となってプロモーションを実施した。また、富裕層インバウンドの受け入れ態勢を整え、高付加価値コンテンツを発売するに至った。

#### 【課題】

能登半島地震によって主に能登地域との周遊観光に支障が出ており、市内観光客入込数にも影響している。今後の近隣市町村と連携した観光客誘致事業についても地震の影響



響を考慮した内容に見直す必要がある。

### ●普及啓発

平成 29 年度から高岡御車山祭が行われる 5 月 1 日を「高岡の歴史文化に親しむ日」と定め、小・中・特別支援学校を休業とし、祭礼行事を肌で感じ、体感する機会を設けている。また、この日にあわせ、短歌・俳句など、高岡の歴史・文化に関する作品を募集し、表彰・展示を行っている。さらに毎年テーマを決めて市内の歴史的な建物を巡るスタンプラリーを実施するなど、児童・生徒が歴史・文化を学ぶ「高岡再発見プログラム」を実施しており、これらを今後も継続する。

地元の高校・大学で日本遺産に関する講義や、学生と連携して情報発信を行うなど、普及啓発とともに、若い世代への情報発信を促進する。

市民、団体に対しては、出前講座の受講を呼びかけるなど高岡の日本遺産や歴史・文化を学ぶ機会の提供を継続する。

また、日本遺産の日に併せて「高岡日本遺産給食」などを実施してメディア露出を増やし、日本遺産のまち高岡に対する市民の誇りと愛着を育むとともに、日本遺産のイメージキャラクターの公開・利用促進など、市民が主体的に行う高岡の魅力発信を促進する。

#### 【これまでの成果】

「高岡再発見プログラム」は好評を受けてリニューアルを実施して、児童・生徒だけではなく大人も楽しめる内容とした。「高岡日本遺産給食」は児童・生徒に好評であり、マスコミも大きく取り上げ、市民への普及啓発に貢献していることから日本遺産の日に併せて定番行事化する予定である。

#### 【課題】

市民の日本遺産の認知度は 60%程度で普及啓発の余地は大きいと、様々な団体に出前講座の受講を呼びかけるなど今後も継続的な普及啓発活動が必要である。

### ●情報編集・発信

既存のウェブサイト（高岡市 HP、高岡市観光協会 HP）の継続活用に加え、様々なメディアでそれぞれのメディアの特徴を考慮した情報発信することで顧客のニーズに合う発信を行う。特に令和 5 年度に開設した高岡市公式観光インスタグラムの発信を重視する。そのほか、イベントブースでは映像作品の放映や高岡ならではのワークショップを実施して広域的な情報発信も継続する。

#### 【これまでの成果】

高岡の日本遺産について分かりやすく解説したアニメーションを作成し、情報発信について力を入れてきた。内容には高岡の日本遺産に関するクイズなども取り入れ、好評である。

#### 【課題】

イベントブースでは高岡ならではの錫を活用したワークショップが好評であったが、錫の高騰に伴い、体験料が高額になっているため、手軽な価格でありながら満足度の高い内容に改める必要がある。

## (4) 実施体制

### 1. 主体：高岡市日本遺産推進協議会（企画・実施・進捗管理）

- ・高岡市
- ・高岡市教育委員会
- ・高岡商工会議所
- ・近世高岡の文化遺産を愛する会
- ・住民主体の保存・まちづくり団体（山町筋、金屋町、勝興寺周辺、吉久）

#### <主な役割>

総括・普及啓発：高岡市教育委員会文化財保護活用課ほか

観光事業化：高岡市観光交流課ほか

文化財保存・活用：高岡市教育委員会文化財保護活用課ほか

### 2. 評価

- ・高岡市日本遺産推進協議会総会（役員・地元団体）
- ・総合計画審議会総会（有識者）
- ・歴史まちづくり協議会（有識者）

#### [民間事業者との連携]

協議会と連携し、日本遺産を活用した事業を実施する。

#### <観光関係>

- ・観光協会…有償観光ガイドの育成、体験コンテンツ等の商品の造成、販売。
- ・地域連携 DMO とやま観光推進機構（県域連携）…旅行商品の造成、販売。
- ・地域連携 DMO 一般社団法人富山県西部観光社 水と匠（県西部連携）…地域プロデューサーが中心となって運営。歴史・文化やものづくりをテーマとした高付加価値ツアーの造成、販売。県西部地域の観光資源とタイアップしたツアーの造成、販売。
- ・とやま観光発信会…国内外で観光商談会を開催して旅行商品のセールスを実施する。

#### <経済関係>

- ・（株）高岡ステーションビル…日本遺産のまち高岡の PR
- ・オタヤ開発（株）…日本遺産のまち高岡の PR
- ・末広開発（株）…日本遺産のまち高岡の PR
- ・高岡ケーブルネットワーク（株）…テレビ番組、5G 技術等を活用した日本遺産のまち高岡の PR
- ・御旅屋商店街振興組合…日本遺産ブランドを活用した商品展開
- ・高岡商工会議所…日本遺産ブランドを活用した商品展開
- ・高岡市商工会…日本遺産ブランドを活用した商品展開

#### <教育関係>

- ・富山大学（芸術文化学部）、高岡法科大学など、地域の教育機関…普及啓発、情報発信、人材育成

#### ＜その他＞

- ・たかおか観光戦略ネットワーク（交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドなど）…市民や学生による魅力 PR、情報コンテンツ作成など
- ・新幹線まちづくり推進高岡市民会議（市民・事業者・市）新高岡駅の利用促進など
- ・アート&クラフトシティ高岡推進委員会（市民・事業者）…職人と観光客の交流体験コンテンツの造成など
- ・飛越能経済観光都市懇談会（飛越能自治体・経済団体）…飛越能エリアでの広域連携した観光 PR など

#### [人材育成・確保の方針]

- ・本市においては、定年退職後に高岡の観光面に貢献したいとしてボランティアガイドに応募するシニア層が多いため、ガイド講習の際に日本遺産に関する講座を組み込む。
- ・企業や学校に対して観光ガイドや日本遺産に関する講座を実施することで県外からの来訪者に対して日本遺産のストーリーを紹介できる体制を整える。
- ・たかおか観光戦略ネットワーク等によって観光に関わる事業者（交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドなど）が交流することで相互に磨き上げを図る。

#### （５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

##### 1. 個別計画への日本遺産の位置づけ

総合計画の下にある各個別計画に、日本遺産の活用を組み込んでおり、さまざまな主体が、計画に基づいて日本遺産を活用した取組みを推進していく。

随時、有識者からの評価を受け、進捗管理を行う。

＜参考＞日本遺産の活用を明示した計画

①高岡市総合計画、②高岡市総合戦略、③歴史まちづくり計画（高岡市歴史的風致維持向上計画）、④高岡市観光振興ビジョン

##### 2. 協力団体への働きかけ

「日本遺産」の地域資源としての価値を評価し、経済、観光のそれぞれの分野で日本遺産を活用した取組みや PR 事業を行うことが、ひいては本市への観光客の増加、地域全体の活性化につながるということを踏まえ、経済関係団体、観光関係団体に対し、日本遺産を活用した観光振興、地域振興への協力を継続的に働き掛けていく。自己事業として日本遺産に関する活動を行う協力団体の取組み数を「指標」として定める。

##### 3. 地域連携 DMO との連携・支援

日本遺産に認定された高岡の歴史ストーリーに精通した地域プロデューサーが中心となり、平成 31 年 5 月に富山県西部を対象エリアとした候補 DMO「一般社団法人 富山県西部観光社」が設立、令和 3 年 11 月に地域連携 DMO として認定され、補助金に頼らない事業活動を実施している。富山県西部地域は加賀前田家ゆかりのエリアであり、この地域特有の歴史・文化やものづくりなどをテーマとした付加価値の高い旅行商品の造成・販売に取り組むことが、地域連携 DMO の事業方針の 1 つとして示されている。具体的には、富裕層インバウンド層を対象にした本市の文化財やものづくりを活用した特別な体験が行え



る旅行商品や地域連携DMOの特徴を生かした県西部の観光資源とタイアップした旅行商品の造成・販売等の取り組みを実施している。

今後とも、同法人との連携を強化するとともに、同組織が活動を拡大する中で、相互協力していく。

#### 4. 教育機関との連携による将来の中核人材の育成

小・中・特別支援学校でものづくりデザイン科、歴史文化に親しむ日などのプログラムを通して、ものづくりのまち高岡という地域固有の歴史・文化を学び、また地域の伝統工芸の担い手と交流するプログラムを実施することで、次世代の育成を図る。

また、市内に立地する富山大学芸術文化学部との連携により、将来のまちづくりの担い手となる人材を確保する。同学部では、本市の歴史・文化や観光、都市計画に係る本市の取り組みを学び、地域活性化の提案を行う授業を教育課程に組み入れている。さらに、高岡市の歴史的な町並みを舞台に、高岡の魅力を発信する「市場街」「ミラレ金屋町」などのイベントの実行委員会に、学生が参画し、住民、職人、作家らと交流しながら、主体的に地域の活性化に関わっている（実行委員の活動そのものが授業となっている。）。今後もこうした取り組みを続け、学生時代から地域と関わる機会を設けることで、次世代のまちづくり人材を育成し、地域に中核人材が残っていくサイクルを構築する。

#### 5. 有償ガイドの育成・支援

有償ガイド実績（件数）を増加させ、自立的な運営ができるよう、高岡市観光協会と協力して、周知による利用増と新規ガイドの獲得を図るとともに、ガイドの育成・質の向上に取り組む。

#### 6. その他

ふるさと納税において「歴史・文化の魅力発信を応援したい」という応援メニューを追加して日本遺産を含めた本市の歴史・文化に関する事業に寄附金を活用しており今後も継続する。また、日本遺産事業を通して本市の関係人口を増加させることで寄付額の増額を目指す。

人々の愛着と関心を高めるとともに、環境整備や魅力の発信に継続して取り組む。

### （6）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・地元住民が歴史文化に愛着と誇りを持ち、進んで紹介したくなるようなまちの整備、普及啓発の実施。（日本遺産を活用したシビックプライドの醸成）
- ・高岡市への観光客入込数、宿泊者数の増加により、観光産業が活性化し、まちが賑わうことで、歴史的風致を形成する建造物の所有者や重伝建エリアに住む地域住民の保存及び活用への意識の向上につなげる。
- ・民間事業者による日本遺産ブランドを活用した商品開発。
- ・小・中・特別支援学校の児童・生徒を対象とした取組みを継続し、本市の歴史文化に愛着と誇りを持つ児童・生徒を育成し、未来への伝承者や理解者が育つ環境を維持する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名		「日本遺産のまち高岡」関連事業促進事業	
概要		日本遺産連盟・各地の日本遺産推進協議会との連携や民間主体での日本遺産関連事業拡大を通して事業効果拡大を目指す。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産連盟との連携事業	全国の日本遺産認定協議会が加盟する日本遺産連盟のなかで役割を果たし、日本遺産フェスティバルの開催などに積極的に参画する。全国及び高岡の日本遺産の知名度向上に向けての活動のほか、情報交換・地域間連携を行うためのプラットフォーム形成にも努める。	高岡市日本遺産推進協議会
②	北前船日本遺産推進協議会との連携事業	シリアル型で日本遺産として認定されている「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」の認定団体である北前船日本遺産推進協議会の加盟市として本市も協議会事業に協力するとともに高岡市日本遺産推進協議会とも共同で加賀前田家ゆかりの町人文化と連携した北前船の日本遺産に関連する事業を実施する。	高岡市・高岡市日本遺産推進協議会
③	民間主体での日本遺産関連事業の実施の推進	さまざまな関係団体に日本遺産に関する情報提供や取組みの実施依頼を行い、市内の団体が自主事業として行う日本遺産に関連する取組み数を増やす。	高岡市・高岡市日本遺産推進協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数（件）		11
2022			12
2023			14
2024			16
2025			18
2026			20
2027			22
2028			24
2029			26
事業費		2024 年度：800 千円	2025 年度：800 千円 2026 年度：800 千円

継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体と連携の際に情報交換を積極的に行うことで効果的な事業を実施に繋げる。</li> <li>・民間団体が自主財源で日本遺産関連事業を実施することで継続した取組みに繋げる。</li> </ul>
事業費	2027 年度：800 千円      2028 年度：800 千円      2029 年度：800 千円
継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体と連携の際に情報交換を積極的に行うことで効果的な事業を実施に繋げる。</li> <li>・民間団体が自主財源で日本遺産関連事業を実施することで継続した取組みに繋げる。</li> </ul>

(事業番号 1 - B)

事業名	独自財源確保に向けた事業		
概要	独自財源確保のためにふるさと納税活用継続し、集めた資金は日本遺産推進協議会に対する補助や構成文化財の維持管理等に活用する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ふるさと納税活用継続	本市のふるさと納税の応援メニュー「歴史・文化の魅力発信を応援したい」を継続し、日本遺産や関連する歴史・文化に対する事業財源を確保する。	高岡市
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	歴史・文化資源の保全・活用・発信を目的としたふるさと納税額（千円）		-
2022			18,340
2023			19,200
2024			20,000
2025			20,400
2026			20,800
2027			21,200
2028			21,600
2029			22,000
事業費	2024 年度：0	2025 年度：0	2026 年度：0

継続に向けた 事業設計	・ 日本遺産ストーリーと密接な関わりがある高岡のものづくりに関連する商品を返礼品に取り入れるなど高岡の日本遺産を知った市外の方がふるさと納税を行いやすい仕組みにする。
事業費	2027 年度：0                      2028 年度：0                      2029 年度：0
継続に向けた 事業設計	・ 日本遺産ストーリーと密接な関わりがある高岡のものづくりに関連する商品を返礼品に取り入れるなど高岡の日本遺産を知った市外の方がふるさと納税を行いやすい仕組みにする。



(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	「日本遺産のまち高岡」総合戦略形成事業		
概要	「日本遺産のまち高岡」として多くの市民・団体を日本遺産関連事業に巻き込み、全市的な取り組みを実施に繋げるとともに観光客誘致に繋がる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	高岡市総合計画、高岡市総合戦略、歴史まちづくり計画（高岡市歴史的風致維持向上計画）、高岡市観光振興ビジョンへの日本遺産の位置づけ	本市の各計画内に日本遺産の取組の位置づけを行い、行政や地域を挙げて日本遺産の取組を継続することを示す。	高岡市
②	たかおか観光戦略ネットワーク事業	交通事業者、旅行事業者、宿泊事業者、ボランティアガイドなどが構成員となり、高岡市観光振興ビジョンの進行管理を行うとともに、日本遺産の構成文化財を素材として、市民や学生による魅力PR、情報コンテンツ作成などに取り組む。	高岡市
③	高岡市文化財保存活用地域計画策定事業	高岡の歴史と風土に培われてきた多くの文化財をまちづくりに生かしつつ、市民共有の宝として未来に継承し、さらに洗練していくことを目的に文化財保存活用地域計画を策定するもの。令和6年度中の認可を目指す。計画においては、普及啓発や活用の面において本計画と連携した日本遺産関連事業計画を盛り込む。	高岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協力団体が行う日本遺産に関する取組み数（件）		11
2022			12
2023			14
2024			16
2025			18
2026			20
2027			22
2028			24
2029			26
事業費	2024 年度：800 千円 2025 年度：800 千円 2026 年度：800 千円		
継続に向けた事業設計	・全市的な取組みと位置づけ、様々な団体が独自事業で日本遺産関連事業を実施することで事業継続性を持たせる。		

事業費	2027 年度：800 千円 2028 年度：800 千円 2029 年度：800 千円
継続に向けた 事業設計	・全市的な取組みと位置づけ、様々な団体が独自事業で日本遺産関連事業を実施することで事業継続性を持たせる。

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	「日本遺産のまち高岡」おもてなし事業		
概要	観光ガイド等に対して日本遺産の物語を説明できる観光ガイドを育成することで「日本遺産のまち高岡」として適切なおもてなし体制を整える。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイドの育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の観光ガイドのノウハウの共有化</li> <li>・興味を引き付けるガイド技術の向上に係る講座の実施</li> <li>・新規ガイド獲得につなげるための養成講座の実施 など</li> </ul>	高岡市・高岡市観光協会
②	日本遺産ガイドの育成	日本遺産の物語を説明できる観光ガイドの育成講座を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民対象の一般講座</li> <li>・企業・学生向け講座</li> <li>・インバウンド対応ガイド育成</li> <li>・DX ツールを活用したガイド講座</li> </ul>	高岡市日本遺産推進協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	有償ガイドによるガイド件数（件）		137
2022			471
2023			499
2024			524
2025			550
2026			578
2027			607
2028			637
2029			669
事業費	2024 年度：276 千円 2025 年度：276 千円 2026 年度：276 千円		
継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡市観光協会と地域の観光ボランティアガイド団体の間に連絡体制を構築しており、観光客の斡旋やガイド団体同士の交流がスムーズに行える設計とする。</li> <li>・新規ガイド養成講座を毎年実施することで、引退されるガイドの方が発生しても人数を維持できる体制を整える。</li> </ul>		

事業費	2027 年度：276 千円 2028 年度：276 千円 2029 年度：276 千円
継続に向けた 事業設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡市観光協会と地域の観光ボランティアガイド団体の間に連絡体制を構築しており、観光客の斡旋やガイド団体同士の交流がスムーズに行える設計とする。</li> <li>・新規ガイド養成講座を毎年実施することで、引退されるガイドの方が発生しても人数を維持できる体制を整える。</li> </ul>



(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	「日本遺産のまち高岡」ソフト整備事業		
概要	既存パンフレットの更新や新規パンフレットの整備によって市民・観光客に対する情報提供の質を向上させるとともに、文献調査によって新たなサブストーリーの提供を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産パンフレット整備事業	日本遺産のストーリーや関連する観光情報を紹介するパンフレットを更新・増刷する。	高岡市日本遺産推進協議会
②	高岡大仏多言語パンフレット作成	高岡のシンボルであり構成文化財である「高岡大仏」の知られる建立秘話をはじめ、高岡鑄物の歴史と魅力を発信する多言語パンフレットを制作する。「高岡大仏」は高岡銅器職人が鑄造から着色まで一貫して携わっており、魅力発信によって高岡のものづくりのブランド価値向上に寄与するとみられる。	高岡市日本遺産推進協議会
③	北前船関連文献調査事業	北前船資料館(旧秋元家住宅)に収蔵されている文献資料中心に調査し、高岡の北前船に関する情報を整理し、新たなサブストーリーの提供や北前船資料館の展示パネルの刷新等に繋げ施設の魅力向上を図り、勝興寺を訪問した観光客の周遊を促す。例：明治 25 年に京都の興正寺から勝興寺に唐門を北前船で運んだということを立証する等。また、中心エリアに所在し、北前船との関わりの深い菅野家住宅と北前船資料館と連携した事業を行うことで北部エリアと中心エリア間の観光客の周遊を促す。	高岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産コンテンツ体験施設入込数(人)(瑞龍寺、勝興寺、武田家住宅、伏木北前船資料館、土蔵造りのまち資料館、伏木気象資料館、鑄物資料館、高岡御車山会館) ※暦年		115,220
2022			182,458
2023			237,001
2024			279,600
2025			285,800
2026			292,000
2027			298,200
2028			304,400
2029			310,600
事業費	2024 年度：3,698 千円 2025 年度：1,300 千円 2026 年度：600 千円		

継続に向けた事業設計	・パンフレットの配布部数を集計して、配布状況や観光客の関心を把握して、適切な部数を更新する。
事業費	2027 年度：600 千円 2028 年度：600 千円 2029 年度：600 千円
継続に向けた事業設計	・パンフレットの配布部数を集計して、配布状況や観光客の関心を把握して、適切な部数を更新する。

(事業番号 4-B)

事業名	「日本遺産のまち高岡」ハード整備事業		
概要	施設や構成文化財、看板等の整備や適切な修繕を実施することで日本遺産のストーリーを体験する基盤を維持する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	誘導標識設置等事業	観光案内看板を設置・更新し、本市を訪れる観光客の利便性を図る。	高岡市
②	赤レンガの銀行建物保存・活用事業	町民によって繁栄した日本遺産ストーリーにおいて、経済の中心地と位置付けられるのが山町であり、特に旧北陸道沿いの町を「山町筋」と呼び、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。この通りを象徴する建造物の1つである「旧高岡共立銀行」建物について、民間活力の活用による文化財的価値の保存と交流拡大に資する機能の両立に向け、民間事業者との対話を重ね、具体的な利活用方針の検討を進める。	高岡市
③	施設の環境整備	洋式トイレの整備、Wi-Fi 整備、多言語による案内板の整備などに取り組む。また、新高岡駅の観光交流センターのリニューアルを実施することで新高岡駅の魅力向上と利用者の利便性の向上を図り、市内観光地への入込数の増加を図る（令和6年度）。	高岡市
④	前田利長墓所保存修理事業	構成文化財である前田利長墓所の防護柵や玉垣の修繕や剪定事業を計画的に実施することで保存・継承や観光客の安全確保を図る。	高岡市
⑤	重要伝統的建造物群保存地区整備事業	金屋町、山町筋、吉久3地区の重要伝統的建造物群保存地区内の伝統建造物の修理、非伝統建築の修景工事を補助することで、伝統建造物の維持や景観の向上を図る。	高岡市

⑥	構成文化財解説多言語 看板の維持管理	市内各地に設置してある構成文化財解説多言語 看板の維持管理に努める。(定期的な巡回、劣化 部分修繕、状況に応じた更新・新設)	高岡市日本 遺産推進協 議会
⑦	高岡城跡（高岡古城公 園）景観再生プロジェ クト	高岡城跡の雑木を伐採して、堀や石垣等を良く 見えるように景観を改善する。来場者に対して 近世城郭跡としての価値を分かりやすく伝える ことを目指す。	高岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない（活 用可能な状態にある）割合（％）		100
2022			100
2023			95
2024			95
2025			95
2026			100
2027			100
2028			100
2029			100
事業費		2024 年度：151,837 千円 2025 年度：63,264 千円 2026 年度：63,264 千円	
継続に向けた 事業設計		・施設や構成文化財、看板等を計画的に修繕や更新を実施する。	
事業費		2027 年度：66,264 千円 2028 年度：66,264 千円 2029 年度：66,264 千円	
継続に向けた 事業設計		・施設や構成文化財、看板等を計画的に修繕や更新を実施する。	

(事業番号 4－C)

事業名		「日本遺産のまち高岡」構成文化財震災復興事業	
概要		令和 6 年能登半島地震により損傷を受けた構成文化財等を修復すると ともに将来の地震から文化財を守る耐震診断等の事業を実施する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	能登半島地震災害構成 文化財復旧事業	能登半島地震で被害を受けた構成文化財等を関 係者と協議を重ねて計画を策定して適切な時期 に修復を実施するもの。	高岡市
②	瑞龍寺耐震診断事業	構成文化財である国宝瑞龍寺を後世に保存・継 承するために耐震診断事業を実施する。耐震診 断や建物調査結果を基に補強案・設計を行い、 令和 11 年度を目標に耐震補強・保存修理工事 を実施。	高岡市

③	菅野家住宅保存整備事業	構成文化財である重要文化財菅野家住宅を後世に保存・継承するために耐震診断事業を実施する。耐震診断や建物調査結果を基に補強案・設計を行い、令和8年度を目標に耐震補強・保存修理工事を実施。	高岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産の構成文化財震災修復進捗度（0PT⇒100PT） ※損傷を受けた構成文化財 15 件にそれぞれ修復ポイントを割り当て（合計 100PT）。修復が進捗するごとにポイントを積み上げる。	0	-
2022			-
2023			0
2024			20
2025			50
2026			70
2027			80
2028			90
2029			100
事業費		2024 年度：114,380 千円 2025 年度：112,580 千円 2026 年度：57,520 千円	
継続に向けた事業設計		・関係者と協議を重ねながら適切な手法で修復事業を進める。	
事業費		2027 年度：62,820 千円 2028 年度：45,000 千円 2029 年度：67,500 千円	
継続に向けた事業設計		・関係者と協議を重ねながら適切な手法で修復事業を進める。	



(7) - 5 観光事業化

(事業番号 5 - A)

事業名	「日本遺産のまち高岡」観光推進事業		
概要	「日本遺産のまち高岡」のストーリーを多くの観光客に体験していただくための商品造成や集客事業、観光客の利便性や満足度を向上させる事業の実施をする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	金沢・富山県西部地区 広域観光推進（加賀藩 ゆかりの地連携）	金沢市と富山県西部6市という加賀藩ゆかりの 地が連携し、金沢からの日帰り旅行商品などの 国内外への観光PRに取り組む。	高岡市・高岡 市観光協会
②	観光宣伝事業	出向宣伝、雑誌への広告出稿などを行う。日本遺 産構成文化財を含む記事を掲載する場合はロゴ マークの掲載や、ストーリーを伝えるウェブサ イトへのリンクなどを通じ、他文化財への周遊 促進を図る。	高岡市・高岡 市観光協会
③	高岡おもてなし旅行商 品支援事業	日本遺産の構成文化財である瑞龍寺、勝興寺の 2つの国宝をはじめ、3つの重伝建地区やもの づくり文化といった観光素材を組み合わせたツ アーを企画した旅行会社を支援する。また、高岡 に関心のある方をターゲットとした宿泊料金の 割引キャンペーンを実施する。	高岡市・高岡 市観光協会
④	新高岡駅利用促進観光 バス事業	日本遺産に認定されている高山市、七尾市（キリ コ祭り）や、世界遺産に認定されている五箇山・ 白川郷と高岡市とつなぐ高速バスの運行補助を 行い、歴史・文化に関心のある観光客の周遊促 進を図る。南砺市、氷見市、七尾市、富山県等 との連携事業。	高岡市・高岡 和倉間高速 バス路線維 持対策協議 会
⑤	新高岡駅利用促進事業	民間団体による新高岡駅発着の旅行商品造成等 につながる取り組み支援を行う。 日本遺産ロゴマークの活用や、ストーリーの発 信などにより、前田家ゆかりの文化遺産をきっ かけとして、他文化財への周遊促進を図る。	高岡市
⑥	万葉線利用促進事業	協議会で運営しているHP「城端線・氷見線ガイ ド」にて、高岡駅を起点として運行されている JR 城端線・氷見線の沿線にある日本遺産構成文 化財の紹介をすることで、文化財を巡る観光客 の移動意欲を促し、周遊促進を図る。	万葉線対策 協議会
⑦	城端・氷見線イメージ アップ事業	高岡駅を起点として運行されている JR 城端線 ・氷見線の沿線にある日本遺産構成文化財の紹 介、構成文化財を活用したイベントとの連携を 行うことで、文化財を巡る観光客の移動意欲を	城端・氷見 線活性化推 進協議会

		促し、周遊促進を図る。	
⑧	新たな芸術文化創造推進事業（アート＆クラフトシティ高岡推進事業）	歴史的なまちなみを舞台に、クラフト・工芸をテーマに、住民、大学生、職人、アーティストらが協力し、高岡の魅力を発信するイベントを実施する（市場街）	高岡市
⑨	市町村タイアップ事業	DMO とやま観光推進機構と連携し、旅行商品の造成やPR を実施する。	高岡市
⑩	地域連携 DMO と連携した観光推進事業	地域連携 DMO「富山県西部観光社 水と匠」や関連会社等と連携した旅行商品の開発・販売促進事業を実施する。	高岡市・高岡市日本遺産推進協議会・高岡市観光協会
⑪	日本遺産関連商品販売促進事業	高岡の日本遺産ストーリーと関連性のある高岡市チャレンジ新商品や料理メニュー、旅行商品等に日本遺産のロゴを付与することでブランド価値を高め、販売促進を目指す。	高岡市・高岡市日本遺産推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	株式会社 水と匠 高岡関連旅行商品販売数（件）		－
2022			71
2023			22
2024			70
2025			100
2026			100
2027			120
2028			120
2029			150
事業費	2024 年度：52,289 千円 2025 年度：52,289 千円 2026 年度：52,289 千円		
継続に向けた事業設計	集客、商品造成、一次交通、二次交通の各分野の事業をバランスよく実施する。		
事業費	2027 年度：52,289 千円 2028 年度：52,289 千円 2029 年度：52,289 千円		
継続に向けた事業設計	・集客、商品造成、一次交通、二次交通の各分野の事業をバランスよく実施する。		
(事業番号 5－B)			
事業名	「日本遺産のまち高岡」インバウンド推進事業		

概要		・「日本遺産のまち高岡」のストーリーを外国人観光客に体験してもらうための集客や利便性向上のための事業を実施する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンド強化事業	高岡・郡上外国人観光客誘致協議会として、台湾をはじめ、アジアの旅行会社との商談に取り組む、また、市内の観光関連事業者が自ら取り組むインバウンド向け体験商品造成を支援し、作り上げた商品を台湾へのセールスコールで PR し、誘客促進へつなげる。	高岡市・高岡市観光協会
②	キャッシュレス化	「高岡市がんばる商店街づくり推進事業費補助金」のメニューの1つとして店舗等のキャッシュレス化を推進し、外国人観光客にスムーズに対応できる体制を整える。	高岡市
③	土蔵造りのまち資料館インバウンド受入れ事業	構成文化財である土蔵造りのまち資料館（旧室崎家住宅）において、インバウンド受入れ体制を構築する。資料館内部のほか、指定管理者により山町筋全体のツアーも提供することで周辺への波及効果を高めるとともに伝統建築を通して高岡のストーリーについても理解を深めてもらう。	高岡市・指定管理者(株)はんぶんこ
④	海外販路開拓支援事業	アメリカフォートウェーン市等において伝統工芸品の販路を開拓して伝統工芸品販売額の向上に繋げるとともに外国人観光客誘致にも繋げる。	高岡市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	外国人観光客の入込数（外国人観光客宿泊者数（人）※暦年）		1,827
2022			2,762
2023			6,495
2024			10,000
2025			12,500
2026			15,000
2027			15,500
2028			16,000
2029			16,500
事業費	2024 年度：36,445 千円 2025 年度：36,445 千円 2026 年度：36,445 千円		
継続に向けた事業設計	・外国人観光客や海外エージェントのフィードバックを大切にして相手方の目線に立った事業を実施する。		
事業費	2027 年度：36,445 千円 2028 年度：33,445 千円 2029 年度：33,445 千円		

<p>継続に向けた 事業設計</p>	<p>・外国人観光客や海外エージェントのフィードバックを大切にして相手方の目線に立った事業を実施する。</p>
------------------------	---



(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名		「日本遺産のまち高岡」シビックプライド醸成事業	
概要		市民、学生、児童に対して日本遺産のストーリーや構成文化財について学んでもらう事業を実施することでシビックプライドの醸成に繋げる。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	高岡再発見プログラム事業	日本遺産の構成文化財を含む歴史文化の中から1つテーマ選んで紹介し、歴史的背景や施設の見どころを盛り込み、子供から大人まで楽しめるスタンプラリーを実施して日本遺産への理解を深める。	高岡市
②	高岡の歴史文化に親しむ日に関する作品募集事業	平成 29 年、ユネスコの無形文化遺産に高岡の御車山祭が登録されたことを契機に、御車山祭の開催される 5 月 1 日を「高岡の歴史文化に親しむ日」とし、市立学校を休業としている。あわせて歴史文化に関する壁新聞・俳句・短歌の作品募集・表彰を行い、児童・生徒が能動的に歴史・文化に関わる仕組みを通じ、郷土を愛する心を育むもの。	高岡市
③	市民向け日本遺産 PR 事業（広報誌で PR 事業、出前講座で PR 事業）	毎月発行する広報紙で、日本遺産の日（2 月 13 日）をはじめ、時機を捉えた日本遺産の魅力を発信する記事を掲載する。また、日本遺産のストーリーや構成文化財、歴史・文化に関わる出前講座を実施することで、市民に対する「日本遺産」の認知度を高め、日本遺産に関する取組みへの参画や、歴史的建造物の保全・活用への意欲を醸成する。	高岡市
④	高校・大学との連携事業	地元の高校、大学（富山大学芸術文化学部、高岡法科大学など）と連携し、日本遺産に関する講義を行うほか、授業やサークル活動の一環として、学生と協力し、情報発信に係る企画・実践を行う。普及啓発とともに、若い世代への情報発信を促進する。	高岡市・高岡市日本遺産推進協議会
⑤	高岡イングリッシュセミナー事業	小・中学生が日本遺産構成文化財をはじめとする高岡の歴史・文化を学び、英語で紹介したり聞いたりする、英語で案内したりする活動を通して、積極的に郷土を紹介しようとする態度を育てる。	高岡市

⑥	高岡日本遺産給食事業	2月13日の日本遺産の日に併せて高岡の日本遺産にちなんだ学校給食を市立小中学校に提供。併せてチラシ等の配布を実施して児童・生徒に対して普及啓発活動を実施する。	高岡市日本遺産推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	「ものづくり・デザイン科」や「高岡の歴史文化に親しむ日」の事業を通じ、郷土に誇りを持った り、高岡の良さを再発見したりすることができた と思う児童・生徒の割合（％）		92
2022			92
2023			93
2024			90
2025			90
2026			90
2027			90
2028			90
2029			90
事業費		2024年度：47,362千円 2025年度：47,362千円 2026年度：47,362千円	
継続に向けた事業設計		・対象年代や受講側の要望を参考にして定型化しない講座を実施して受講者の満足度を高める。	
事業費		2027年度：47,362千円 2028年度：47,362千円 2029年度：47,362千円	
継続に向けた事業設計		・対象年代や受講側の要望を参考にして定型化しない講座を実施して受講者の満足度を高める。	

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	「日本遺産のまち高岡」情報発信事業		
概要	高岡市HPで日本遺産のストーリーや構成文化財の解説。高岡市観光ポータルサイトではPR映像公開等各媒体の特色を活かした情報発信事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	Web媒体での情報発信事業	高岡市ウェブサイト、高岡市観光ポータルサイト及びSNSでの情報発信日本遺産の日(2月13日)など、時機を捉えた日本遺産に関する取組を高岡市・観光協会HP及びSNS(高岡市公式LINE、FB、X(旧ツイッター)、高岡市観光Instagram等)で告知する。	高岡市
②	イベントPRブース出展	日本遺産フェスティバルやツーリズムEXPOジャパン等のイベント時に高岡の日本遺産PRブースを設けてPRやワークショップを実施して情報発信を行うとともに、来場者の印象や他協議会との情報交換を今後の事業の参考に繋げる。	高岡市日本遺産推進協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	高岡市公式観光Instagramフォロワー数(累計)		-
2022			-
2023			2,142
2024			2,570
2025			3,084
2026			3,701
2027			4,442
2028			5,330
2029			6,396
事業費	2024年度:300千円 2025年度:300千円 2026年度:300千円		
継続に向けた事業設計	・各情報発信媒体の年齢層や利用者率の増減を考慮して発信内容や回数を考慮する。		
事業費	2027年度:300千円 2028年度:300千円 2029年度:300千円		

<p>継続に向けた 事業設計</p>	<p>・各情報発信媒体の年齢層や利用者率の増減を考慮して発信内容や回数を考慮する。</p>
------------------------	---